



医療機関における ケシンプタ[®]皮下注20mgペンの投与方法

ケシンプタは、ペン型デバイスを用いて皮下投与する多発性硬化症治療薬です。
ケシンプタを医療機関で正しく投与していただくためにも、下記の記載事項をご熟読ください。

● ペンの各部位の名称と保存方法



⚠️ ケシンプタ保存時の注意事項

- 箱に入れたまま、冷所保存(2~8℃)してください。
- 凍結させないでください(冷凍庫に入れないでください)。
- 直射日光の当たる場所に放置しないでください。

冷所保存
(2~8℃)

● ケシンプタの投与スケジュール



● STEP 1 投与の前に「準備」する

① 箱を冷所(2~8℃)から出して室温に戻す

投与する15~30分前に、ペンが入った箱を冷所から出し、箱のまま室温に戻します。

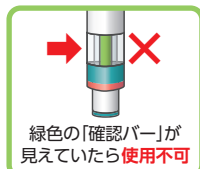
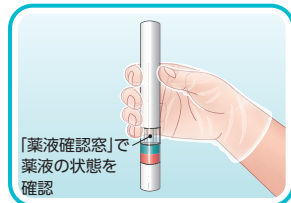


② 薬液とペンの状態を確認する

下記の点をそれぞれ確認します。

《薬液の状態を確認》

- 薬液が**変色していないこと**
(ケシンプタの薬液は、「無色~微褐黄色の澄明またはわずかに混濁した液」です)
- 薬液に**異物が混ざっていないこと**
(薬液中に気泡が見える場合がありますが、問題ありません)
- 薬液確認窓から、**緑色の「確認バー」が見えていないこと**
(緑色の「確認バー」が見えるということは、薬液の注入が完了したことを示しています)



《ペンの状態を確認》

- ペンの使用期限が過ぎていないこと
- ペンが破損していないこと
- 使用済みのペンではないこと

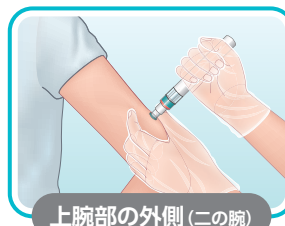
⚠️ 下記の場合は、ペンを使用しないでください

- 薬液が本薬の性状(無色~微褐黄色の澄明またはわずかに混濁した液)と異なる場合
- 薬液に異物(粒、塊など)が混ざっている場合
(薬液中に気泡が見える場合がありますが、問題ありません)
- ペンの使用期限(外箱に表示)が過ぎている場合
- ペンが破損している場合

③ 投与する部位を選ぶ

投与できる部位は、「腹部」、「大腿部」、「上腕部の外側」の3つです。

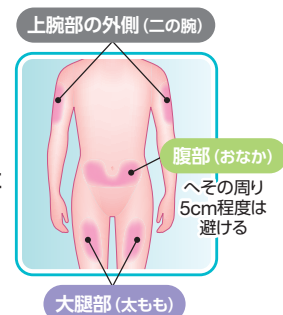
● 投与部位を選択する際のポイント



たるみがあって
柔らかい部位を選ぶと、
比較的投与がしやすく
なります

⚠️ 注意

- 投与部位は**毎回変更**してください。
(前回の投与部位から3cm以上離れた場所に投与すること)
- 「腹部」の場合は、へその周り5cm程度は避けて投与してください。
- 「上腕部の外側」の場合、皮下脂肪が少ない場合は**他の部位への投与を検討**してください。
- 皮膚が敏感な部位、皮膚に痛み、傷、赤み、かさつき、傷あとがある部位、硬くなっている部位には投与しないでください。



STEP 2 ケシンプタを「投与」する

こちらでは「腹部」に皮下投与する場合の投与方法を示しますが、他の部位でも同様です

①投与部位※を消毒する

投与部位とその周囲を広めに、アルコール消毒綿で消毒します（消毒後は投与部位に触れないこと）。

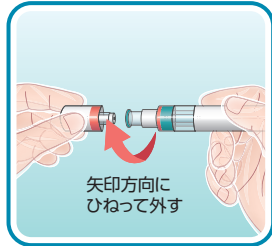
※：腹部（へその周り5cm程度は避ける）
または大腿部または上腕部の外側



②キャップをひねって外す

⚠ 注意

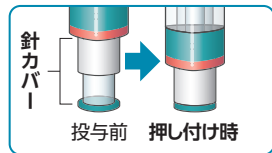
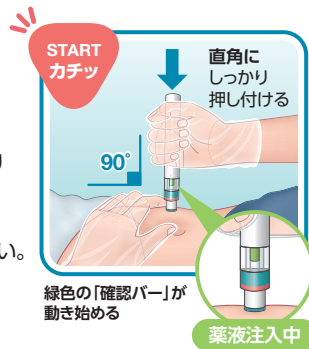
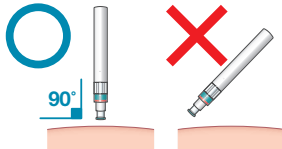
- キャップを外したらすぐに投与してください。外したキャップは直ちに廃棄してください。
- 注射針の先に薬液の水滴が見えることがありますが、問題ありません。



③ペンを投与部位にしっかり押し付けて、薬液注入開始

ペンを投与部位に直角にしっかり押し付けると、「カチッ」と音がして薬液の注入が始まりますので、ペンは押し付けたままにしてください。

すると、薬液確認窓から見える緑色の「確認バー」が動き始めます。



④再度「カチッ」と音がして、緑色の「確認バー」の動きが止まったら、薬液注入完了

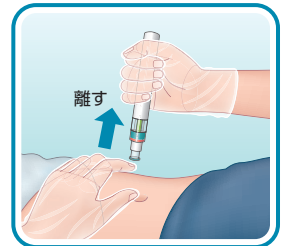
最初に「カチッ」と音がしてから3~4秒程度経過すると、今度は薬液注入完了の目安として、2回目の「カチッ」という音がします。2回目の「カチッ」という音がしても、緑色の「確認バー」が下まで完全に下がって動きが止まるまで、ペンを投与部位から離さないでください。



⑤ペンを投与部位から離す

緑色の「確認バー」の動きが止まったら、ペンを投与部位から離してください。

なお、投与部位に少量の出血がみられる場合は、新しいアルコール消毒綿で投与部位を**揉まずに**10秒間押さえてください（必要に応じて絆創膏を使用）。



⑥投与後の使用済みのペンとキャップを廃棄する

使用済みのペンとキャップは、直ちに、各医療施設のルールに従って、「医療廃棄物」として適切に廃棄してください（キャップは、ペンにはめないこと）。なお、ペンは再使用できません。



これで**投与完了**です

よくある質問 Q&A

Q. 投与する前にペンを落としたりなどして、緑色の「確認バー」が動き始めてしまいました。どうしたらよいですか？

A. そのペンは使用せず、新たなペンを準備し、手順に従って投与してください。

Q. ペンを投与部位に押し付けても、薬液の注入が始まりません。どうしたらよいですか？

A. ペンが正しく押し付けられていないおそれがあります。ペンは投与部位に対して直角に当て、しっかり押し付けてください。腹部に投与する場合、皮膚が柔らか過ぎて、針カバを押し込めない場合もありますので、必要に応じて皮膚を軽くつまんで投与部位を固定してください。それでも薬液の注入が始まらない場合は、ペンが破損しているおそれがあります。

Q. 注入が速い時と遅い時がありますが、問題ありませんか？

A. 問題ありません。緑色の「確認バー」が、下まで完全に下がり動きが止まっていれば、注入は完了しています。普段よりも注入時間が長いと感じられる場合にも、緑色の「確認バー」が下まで完全に下がり動きが止まるまで、ペンを押し付けたまま固定してください。

Q. 注入完了時に「カチッ」という音が聞こえませんでした。問題ありませんか？

A. 「カチッ」という音が聞こえなかった時は、緑色の「確認バー」の動きで、注入が完了しているかどうかを確認することができます。緑色の「確認バー」が下まで完全に下がり動きが止まっていれば、注入は完了していますので、問題ありません。

Q. ペンの薬液注入中、緑色の「確認バー」が下まで完全に下がる前に、ペンを途中で抜いてしまいました。どうしたらよいですか？

A. この場合、規定の投与量がすべて注入されなかったおそれがあります。ペンを途中で抜くことがないように、投与の際には十分にご注意ください。なお、途中で抜いてしまったペンは再使用できませんので、廃棄してください。残っている薬液が排出されるおそれがありますので、廃棄時は取り扱いにご注意ください。